

# 開成の杜

第101号 ●2016年9月29日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



学園前に観えた日本遺産「安積疏水」の堀です。

## 70年間の全てに感謝



理事長・学園長  
関口 修

郡山開成学園の始まりである郡山女子専門学院が創設されて以来、70年の歳月を経る事となりました。時の流れの速さに驚かされると共に、誠に感慨深い思いが限りなく去来します。

筆者が学園長として、創立70周年の記念式典を控え、記念の「もみじ会」直前に発行される「開成の杜」の巻頭言を記すとは、当時は思いもよらなかったことです。

70年の歴史を顧みると、全てに善意の魂によって形成されたと解釈されます。「天の時あり、地の利あり、人の和ありて、事のなるなり」孟子の言葉です。まさに此れ以上に優れた表現はないようです。

故名誉学園長は折々の思いを言葉に残したなかに、借財の苦勞を記しています。が、その苦勞は己の心の肥しとなったとしています。また、余多の幸運についても記しています。故湯川秀樹先生を学園にお招きできたこと、梅原猛先生に御教示を頂いたこと等々、名誉学園長にとっては全てが幸運であったと思われまふ。筆者は故名誉学園長から沢山の苦勞を強いられた仕

事ばかりが思い出として残されています。幸い、命じられた仕事の全てを実現することができました。借財返済の延期願い、借入金交渉、大学・短大の学科新設構想と認可申請、東北各県への学生・生徒募集、国会議員との折衝等々。これらの仕事は、現在の筆者にとつては大きな財産として物の事の判断に役立っているのです。「災い転じて福となす」(戦国策)とは苦勞に遭遇して初めて知りえたことで、艱難に感謝です。東日本大震災による東京電力福島原子力発電所の放射能漏れには当時の政権は助けられず、途方にくれましたが、文部科学省が福島県私立大学の要望を受け止めてくれたことには感謝です。

これまでの学園は本当に沢山の方々から、物心両面の御支援を頂いてきました。最近になって、誠に嬉しく有難い真心が届けられました。それは大学と短期大学の学友会代表が、微笑みながら創立70周年を記念し、多額の寄付を持参してくれました。感謝です。

学園は今、多くの団体や地方自治体と包括的な連携協定を結ぼうとしています。これは、地域社会が信頼して下さっていることであり、感謝に堪えません。

此処に学ぶ皆さんの学園が地域から盛り立てられる学園に成長してきたことに感謝しましょう。

J A 福島さくらと包括的連携協定を締結

新たな食文化、農業振興など  
5本の柱で協力を!

本学園(関口修理理事長)とJA福島さくら(結城政美組合長)は8月22日、研究開発、地域貢献及び社会貢献、人材交流などを推進する包括的連携協定を本学で締結した。連携事項は「農産物の振興」「教育・人材育成」「食文化の振興」など5項目が設定された。「農産物の振興」では大学、短大、附属高校の学生、生徒らがJAと協力し、郡山産米を使用した「あさか舞弁当」の製作、市販、もみじ会での「JAさくら」...



田植えを体験した附属高校食物科



協定を締結したJAさくら結城組合長と

5本の柱の具体的な取り組み事例

食文化の振興
「あさか舞弁当」の製作、市販
JA福島さくらの特産品を用いた6次化商品の開発
日本史・民俗学分野からの食文化の連携研究
JA福島さくらの協力によるサツマイモ収穫体験
JA福島さくらの協力による米の栽培と収穫体験

農産物の振興
「あさか舞弁当」の製作、市販
農業体験・研修農園整備遊休野内活用推進
JA福島さくらの特産品を用いた6次化商品の開発
もみじ会での「JA福島さくら農産物」の販売コーナー設置
JA福島さくらの指導を受け栽培している「あさか舞」を使用した会席弁当の提供

健康・福祉の振興
JA福島さくらと共催の出前保健・福祉・介護相談会、介護実習会の開催
「あさか舞弁当」(健康食)の製作、市販
JA福島さくらが主催する食の安全などに関する講演会等への講師派遣

教育・人材育成
JA福島さくらの指導の下での農作業と販売の体験
JA福島さくらの協力によるサツマイモ収穫体験
JA福島さくらの行事等への演奏学生・生徒の派遣
JA福島さくら職員の本学での学習と研究
JA福島さくらでの学生・生徒のインターンシップ制度

その他必要な事項
デザイン専攻教員と学生によるJA福島さくらの製品梱包のデザイン
デザイン専攻教員と学生によるJA福島さくらの製品パッケージのデザイン
デザイン専攻教員と学生によるJA福島さくらの製品内容の色彩的アドバイス

第52回学園教育充実研究会  
「職能の更なる向上を目指して」

第52回学園教育充実研究会(大学・短大・事務局職員)が8月30日、本学園建学記念講堂を主会場に開催された。本年度は、テーマを「職能の更なる向上を目指して」とした。教職員が協力して大学の教育機能・環境の向上に組織的に取り組むため、個々の職能の更なる向上を目指すというものである。そのため本年度は、FD部門とSD部門に分かれて研修会を開き、それを基にしたディスカッションを実施する予定であったが、大会前日、台風10号の東北上陸に備え、当日は午前だけの実施とし、午後の部を中止することが決定した。大会当日、FD部門は大熊雅士氏(元東京学芸大学教職大学院特命教授)による「なぜ、今、アクティブラーニングが必要なのか」と題する研修会を行い、その後、同氏をファシリテーターとしてワークショップを実施した。ワークショップのテーマは「アクティブラーニングを授業に取り入れよう!」で、授業形態別のグループに分かれテーマについて話し合い、グループの意見をポスターにまとめ、建学記念講堂のホワイエ・展示ロビーに集い、作成したポスターを掲示する「ポスター発表」を行った。午後には予定していたプログラムを午前部に凝縮したため、不完全であったことは否めないが、テーマについて熱心に意見交換をする様子、真剣に話し合っている姿が見られた。SD部門は、附属高校事務室係長の村田菜織氏より、「事務業務取り組みについての報告」と題し、高校事務室の業務マニュアル作成について事例発表が行われた。続いて、野田文克氏(日本私立学校振興・共済事業団私学情報室長)から「私立大学等を取り巻く経営環境の変化とその対応策について」と題する研修会を行った。私立大学全般の経営環境と本学の状況についての解説に、真剣に耳を傾けメモを取る職員の姿が見られ、積極的な質疑応答が行われた。午前の部だけの実施となってしまうが、教職員一同、職能について現状の課題と今後の方策を再発見する機会となった。

附属高校 学校見学会 開催



美術科授業体験の様子

附属高校の平成28年度「学校見学会」が、8月28日に開催され、郡山市内はもとより県内外各中学校から中学生、教員、保護者、学習塾関係者合わせて約500名が本校を訪れた。全体会は建学記念講堂大ホールにおいて、放送部員の櫻田裕美、室井愛理の楽しい進行で進められた。最初に佐々木貞子校長より歓迎の言葉、その後、中山優花生徒会副会長の歓迎の挨拶があり、引き続き本校生徒代表(普通科・萱野優佳、音楽科・三坂成海、美術科・大和田実来、食物科・菊地未来)によるビデオとパワーポイントを用いた各科目の説明が、高校生活の実体験を踏まえ親しみやすい内容で行われた。全体会終了後、参加者は希望に応じて施設自由見学、今年から始まる高校入試合格サポート講座の説明会、授業体験のグループに分かれて附属高校の活動を体験した。特に、音楽科・美術科・食物科では、実習や実技を通して高校の授業の一端を感じ取り取ることができ、中学生は満足した様子であった。また、午後から行われた希望者による部活動体験では、高校生の力あふれる演技や動きに圧倒される様子が見られた。また、交流会会場では、本校生徒と参加中学生による、高校の生活全般にわたる様々な意見の交換が行われ、活発な交流が行われた。これらの体験が、中学生の進路選択につながっていくことを期待したい。



事例発表する村田高校事務室係長



講演する野田文克氏

# 平成29年度 入学者選抜実施要綱発表

—大学・短大合同説明会—

平成29年度入学者の選抜実施内容等説明会が7月1日に開催された。本県はもとより山形、栃木などから進学指導教諭ら52人が参加した。関口修学長が挨拶、関口晋入学事務・広報部長代行が平成29年度入学者選抜実施内容等について説明し

た。個別面談では選抜形態に関わる具体的な対応や取得できる資格、就職状況についての質問があった。また、出身学生との面談会場では、教員から日常生活や本学の授業などについて質問していた。

## —附属高等学校— 平成29年度 入試内容説明会

平成29年度郡山女子大学附属高等学校入試内容説明会が、9月16日、建学記念講堂小ホールにおいて開催され、県内中学校の進路指導関係の先生方、学習塾関係者が来校した。

お昼に食料科3年生が調理した会席料理を試食して頂いた後、5校時目の授業を公開授業とし、中学校の先生方に校舎内を移動しながら各授業を参観して頂き、それぞれの中学校の卒業生が授業に参加する姿を見て頂くことができた。

全体会では佐々木貞子校長が、本校の教育内容や新たな取り組みについて説明し、次いで、平栗洋三教頭から、平成29年度入学者選考要項についての説明がなされた。

そして最後には、八巻好照高校事務室長より、本校の授業料や奨学金制度についての説明がなされて幕を閉じた。

### 平成29年度 入学者選考に関する日程一覧

	推薦生	特待生	一般生
出願期間	平成29年1月6日(金) 9:00~16:00 10日(火) 9:00~12:00 ※郵送の場合1月10日(火) 必着		
選考日	平成29年1月18日(水)・19日(木)		平成29年1月19日(木)
合格発表日	平成29年1月26日(木) 12:00		
入学 手続日	●専願推薦生 平成29年2月13日(月) ●併願推薦生 [第1次]平成29年2月13日(月) [第2次]平成29年3月15日(水)	平成29年2月13日(月)	[第1次]平成29年2月13日(月) [第2次]平成29年3月15日(水)

### 平成29年度 入学者選抜日程

	選抜方法	願書受付期間	選抜日	可否通知発送日	手続き締切日
大 学	指定校推薦生・特待生 公募推薦生Ⅰ期 特別生Ⅰ期	10/17(月)~10/28(金)	11/5(土)	11/14(月)	11/25(金)
	高大連携生	10/17(月)~10/28(金)	11/4(金)	11/14(月)	11/25(金)
	公募推薦生Ⅱ期 特別生Ⅱ期	11/18(金)~12/2(金)	12/10(土)	12/16(金)	1/5(木)
	一般生Ⅰ期	1/6(金)~1/20(金)	1/28(土)	2/6(月)	第1回 2/16(木) 第2回 3/16(木)
	一般生Ⅱ期	1/30(月)~2/10(金)	2/17(金)	2/24(金)	第1回 3/8(水) 第2回 3/16(木)
	一般生Ⅲ期 ※大学のみ	2/10(金)~2/24(金)	3/3(金)	3/8(水)	3/16(木)
	短 期 大 学 部	指定校推薦生・特待生 公募推薦生Ⅰ期 特別生Ⅰ期	10/17(月)~10/28(金)	11/5(土)	11/14(月)
高大連携生		10/17(月)~10/28(金)	11/4(金)	11/14(月)	11/25(金)
公募推薦生Ⅱ期 特別生Ⅱ期		11/18(金)~12/2(金)	12/10(土)	12/16(金)	1/5(木)
一般生Ⅰ期		1/6(金)~1/20(金)	1/28(土)	2/6(月)	第1回 2/16(木) 第2回 3/16(木)
一般生Ⅱ期		1/30(月)~2/10(金)	2/17(金)	2/24(金)	第1回 3/8(水) 第2回 3/16(木)
AO生Ⅲ期 ※短大のみ		2/10(金)~2/24(金)	3/3(金)	3/8(水)	3/16(木)

## 平成29年度 入学案内概要

#### ●募集人員

##### 【大学院】

本大学院は、本大学家政学部人間生活学科及び食物栄養学科を基礎に、人間生活学研究科人間生活学専攻の修士課程(2年)、さらに博士(後期)課程(3年)を設けている。

○人間生活学研究科  
修士課程10名(含昼夜開講制)  
博士(後期)課程3名

##### 【大学】

家政学部人間生活学科40名  
(生活総合コース10名・建築デザインコース10名・福祉コース20名)  
家政学部食物栄養学科80名  
【大学3年次編入】

本大学では、両学科とも3年次への編入を認めている。募集人員は両学科とも各10名。  
短期大学、高等専門学校、専修学

校専門課程を卒業、修了または見込みが条件であるが、同等以上の学力があると認められた者も出願できる。

#### 【短期大学部】

家政科福祉情報専攻 40名  
家政科食物栄養専攻 120名  
幼児教育学科 140名  
生活芸術学科 20名  
音楽科 30名  
文化学科 40名

#### 【専攻科文化学専攻】

短期大学の専門教育の基礎の上に、より専門的知識を体系的に学んで総合的な判断力、豊かな人間性を培う。大学評価・学位授与機構の審査をパスすると「文学士」の学位を得ることができる。

#### ●選抜方法

推薦生(特待生・指定校・公募) 特別生(専門・総合学科/高等専門/専修学校/社会人/高認合格者/外国人留学生/帰国子女) 高大連携生(本附属高校生) AO生(自己推薦)

#### ●選抜日程(別項参照)

●AO生選抜日程 I期・II期募集終了。  
III期は短大のみ実施いたします。

### 平成28年度第2回教養講座 「発掘ガールと考古学」

平成28年度第二回教養講座が7月27日、建学記念講堂で行われた。短大文化学科の会田容弘准教授が「発掘ガールと考古学」の演題で講演した。

短大・文化学科では県立博物館の表面調査によって発見された笹原山No.16遺跡(会津若松市)の発掘調査を2001年から考古学の実習として行っている。会田先生は文化学科の学生主体の珍しい女性の遺跡発掘団「発掘ガール」も指導しており、考古学の難

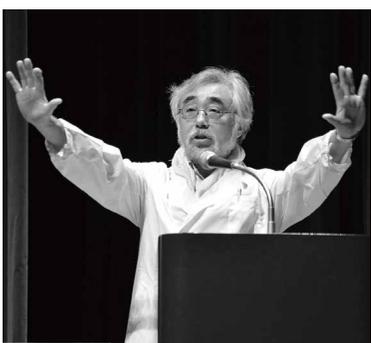
#### 炊き出し訓練を実施しました。

9月7日(水)62年館1階東側付近において炊き出し訓練が行われた。

訓練には、防災管理委員、および参加希望の教職員、併せて25名が集まった。学園には空調用バルクタンク(LPGガス)が15ヶ所あり、万が一災害が発生した際には、炊き出し用の燃料として利用することができる。また、災害用として200人×3日分の食料品等を備蓄している。今回の訓練では、賞味期間が間近となった備蓄品を有効利用する目的で企画した。

最初に、訓練に協力していただいた根本石油担当者より、バルクタンクへの接続方法や注意事項の説明を受け、防災管理委員がバルクタンクにガスホースを接続した。次に、コンロとガス炊飯器を利用し、五目御飯と豚汁を作った。災害用備蓄品を利用したため、五目御飯はアルファ米にお湯を注ぎ15分待つだけ、豚汁は、沸騰したお湯に豚汁の素を入れて完成。「味は、想像していたよりも美味しかった」「避難先で温かい豚汁が食べられると思うと幸せ」との感想があり、皆で美味しくいただいた。災害はいつ起こるかわかりません。いざという時落ち着いて行動できるように、これからも訓練を続けていきたいと思います。

しき、楽しさ、奥深さなどを解説した。建学記念講堂を埋めた1400人の学生や教職員は会田准教授の言葉一つ一つに聞き入っていた。



講演する会田容弘准教授



学校 法人 郡山開成学園

平成27年度 事業報告

一、法人の概要

(1) 建学の精神
本学園は、建学の精神「尊敬」「責任」「自由」を教育目標としている。

それは、お互いの個性を尊重し、敬愛できる豊かな人柄を創り他者においてそれを認めること、そして、人間として存在するためには、責任ある行動で社会への自覚を持つこと。つまり、個性を重視し、互いに理解する「個の確立」と「他との協調」をもって、自主自立できる女性としての人間育成を図るの目的である。

- (2) 学校法人の沿革
(3) 法人名、学校法人郡山開成学園
(4) 所在地 福島県郡山市開成三丁目25番2号

代表者 理事長 関口 修
設置学校名
郡山女子大学大学院

開設：昭和41年4月
郡山女子大学短期大学部
開設：昭和25年4月
郡山女子大学附属高等学校
開設：昭和32年4月
郡山女子大学附属幼稚園
開設：昭和30年4月

学校長名
郡山女子大学

学長 関口 修
郡山女子大学短期大学部
学長 関口 修

校長 八幡 文明
郡山女子大学附属高等学校
園長 賀門 康博
郡山女子大学附属幼稚園

(3) 学校・学部・学科等の入学定員学生数の状況(平成27年5月1日現在)
在学生数 1,197名
学籍数 2,509名

(4) 役員・教職員
理事10人・監事2人・評議員22人

理事会4回開催、評議員会3回開催、監事監査1回実施、会計士監査4回
(5) 教職員 表②参照

二、事業の概要(当該年度)

本学の建学の精神である「尊敬・責任・自由」と学園の基本方針である「品位高尚」「秩序儉約」「創造自立」をもとに、それぞれの学科・部署において計画した教育・運営に関する事項を実施した。

※教育等実施内容
各部署毎に年度当初に立てた計画に基づき、計画(Plan)、実施(Do)、評価(Check)、改善(Act)のPDCAサイクルに従い、教育活動並びに事務活動を行った。

表① 院生・学生・生徒・園児在籍総数【1,197名・前年度比6名増】学則等収容定員【2,509名】 単位名

Table with columns: 院生, 学生, 生徒, 園児, 在籍総数, 入学定員, 収容定員

Table with columns: 郡山女子大学, 在籍数, 入学定員, 編入定員, 在籍学生数, 収容定員

Table with columns: 附属高等学校, 在籍数, 入学定員, 在籍学生数, 収容定員

Table with columns: 短期大学部, 在籍数, 入学定員, 在籍学生数, 収容定員

Table with columns: 専攻科, 在籍数, 入学定員, 在籍学生数, 収容定員

Table with columns: 附属幼稚園, 在籍数, 入学定員, 在籍園児数, 収容定員

表② 教職員324名【教育職員258名 事務職員66名】

Table with columns: 学校別, 教員数, 職員数, 非常勤講師, 合計

☆福島学習センター出向職員 5名 ☆時間雇用職員 7名

- ※平成27年度入学者・入園児数
大学67名・3年編入学15名・短大228名・専攻科2名・高校120名・幼稚園21名 計453名
※平成27年度修了生・卒業生
大学院2名・大学49名・短大226名・専攻科5名・高校108名・幼稚園29名 計419名
(1) 法人関係で実施した主な事業
平成27年度年度当初学園全体職員会
学園創立69周年記念式典
郡山うねり踊りに参加 準大賞
安全防災訓練
第69回もみじ会
福島県私学振興大会
平成28年度大学入試センター試験
平成27年度自己点検報告会
平成27年度年度末学園全体職員会
平成27年度採用者の新任式
新任者オリエンテーション
(2) 大学院・大学・短大で実施した主な事業
大学第50回、短大第66回、専攻科第16回入学式
第1回〜4回・春のオープンキャンパス
平成28年度大学・短大入学者選抜実施内容及び教育内容等説明会
第1回〜3回高大連携基礎能力適性調査
KGCサマリーフレッシムプログラム
AOI・II・III期選抜実施
第51回学園教育充実研究会(大学・短大の部)

- 大学院I・II期選抜実施
大学3年編入I・II・III期選抜実施
大運動会
入学大学・短大・特待生・指定校生・公募推薦生I期・特別生I期「選抜実施」
入学大学・短大「公募推薦生II期・特別生II期・専攻科I期」大学院II期選抜実施
入学大学・短大「一般生I・II期」大学院第22回、大学第47回、短大第65回、専攻科第15回卒業式
その他の実施内容
主任・大学・短大教授会・研究委員会(月1回)、入試判定委員会、学生生活委員会、就職対策委員会・担当委員会、期末試験、教育実習、定期演奏会、卒業研究発表、健康診断、学生相談、教育課程体験事前指導、就職ガイダンス、職業適性検査
※平成27年度卒業生就職状況
【大学】卒業生数49人中
就職決定者数46人(就職率98%)
【短大】卒業生数231人中
就職決定者数202人(就職率98%)
(3) 附属高等学校
「私を創るー未来の私を創るー」という努力目標を掲げ、生徒一人ひとりが自分の目標を設定し、高校生生活をより有意義に送るために、生徒の自己啓発と自発性を育成。
○実施した主な事業
第59回入学式・関口育英奨学金認定式
第1回〜2回学校見学会
第53回東北地区私学研修会
個別相談会(2回)
入試内容説明会
個別相談会(2回)
修学旅行(第2学年)・入学者選考会
第57回卒業式・新入生説明会
その他の実施内容
職員会議・運営委員会(月1回開催)、教育実習、進学相談会、考査、実力テスト、健康診断、校内合唱コンクール、校内球技大会、定期演奏会、卒業発表会、卒業作品展など
(4) 附属幼稚園
本園は、「よくみる、よくきく、よくかかえて」を教育目標として、園児にきめ細かい保育と基本的な生活習慣を身につけさせるとともに集団での遊びにも力を入れて保育を行った。
○実施した主な事業
第61回入園式

- 創立記念日のお集まり
第51回学園教育充実研究会(幼稚園の部)
平成28年度入園説明会
附属幼稚園運動会(第二体育館)
平成28年度入園面接・1日入園
第61回卒園式
その他の実施内容
春・秋の遠足、保育参観、お泊り保育、預り保育、延長保育、夏季保育、七夕、ぼくとわたしのさくひんてん、クリスマス会、おもちつき、節分のおあつまり、お別れ会食、親子パーティー、発表会、園庭整備、父母の講座、KGCマミークラブ、父母会総会、避難訓練(2回実施)
(5) 家庭寮(27年度当初在寮生50名)
新入寮生オリエンテーション、リーダー会議、入寮生歓迎会、お茶会、七夕会、いも煮会、クリスマス会、避難訓練
(6) 大学図書館(高校分館を含む)
本学図書館高大連携打合せ会
運営委員会・土曜開館・蔵書点検
(7) 保健室
定期健康診断実施(大学・短大生・高校生・園児・教職員)
(8) 学園創立者関口育英奨学生の採用
(9) 学生・生徒・園児募集
①大学・短大進学相談会
②高等学校訪問 ③中学校訪問
④園児募集(パンフレット)
⑤大学・短大オープンキャンパス
⑥高校入試内容説明会(アドミッション・ポリシー)
\*その他、学生・生徒・園児募集のための学校案内(大学・短大、高校、幼稚園)の作成と、ホームページの更新
(10) 部活動及び応募等の活動状況
①第61回福島県高等学校体育大会 バレーボール 第1位
②第68回福島県総合体育大会 少年女子バレーボール 第1位
③平成27年度全国高等学校体育大会(インターハイ)バレーボール決勝トーナメント2回戦進出
④平成27年度全国高等学校選抜卓球大会 シングルス出場
⑤平成27年度全国高等学校体育大会(インターハイ)新体操 団体出場
⑥第68回福島県総合体育大会 少年女子ハンドボール 第1位
⑦第61回福島県高等学校体育大会 ハンドボール第1位 インターハイ出場
⑧第39回東北高等学校ハンドボール選抜大会 第1位

- 国際交流競技会
平成27年度福島県高等学校新人体育大会 剣道 女子団体 第1位
第68回福島県総合体育大会弓道遠的競技 女子個人 第1位
第15回マーチング&パトンステージ 全国大会 優秀賞
第33回福島県マーチングフェスティバルマーチングバンド協会の部 金賞
第69回福島県合唱コンクール高等学校の部 金賞
第9回音楽アンサンブルコンテスト全国大会
第17回シヤン国際ピアノコンクール in ASIAアジア大会
第34回福島県高等学校総合文化祭自然科学部門、第28回福島県高等学校生徒理科研究発表会 化学部門最優秀賞
第35回全国高校生読書体験記コンクール 優良賞
第19回全国きものデザインコンクール 京都府知事賞
第2回豆腐腐レシ甲子園 最優秀賞
(11) 安全管理
①屋内消火栓及び消火器の消火訓練を寮職員・寮生向けに実施
②防災管理委員会による屋内消火栓の消火訓練を実施
③安全防災訓練を実施し、身の安全確保並びに避難訓練を実施
(12) 施設・設備関係
施設・設備については、安全性(放射線対策等)とアメニティ(快適な空間)に配慮した教育研究環境の整備を優先順位により行った。
(13) 環境関係
eCO検定アワード2015にて郡山女子大学エコレンジャーが、エコユニット部門で優秀賞を受賞
(14) その他資料
※家族会等
・家族会役員・常任委員合同委員会
・家族会総会
・家族会方別教育懇談会(開催時期は7月上旬から7月下旬)
※芸術鑑賞講座
①「小川典子ピアノリサイタル」
②「沖 仁フラメンコギター」
③「ふるさと大賞作品展」
④「イ・ムジチ合奏団」
⑤東京演劇集団風「ハムレット」
※教養講座
第1回〜2回教養講座
①「時代認識とふくしま再生の道」
②「ユースから未来が見える」

# 平成27年度 決算報告

学校法人郡山開成学園の平成27年度決算について、東邦監査法人の監査を受け、理事会・評議員会で報告、決定されましたので、その概要をご報告いたします。

平成27年度資金収支計算書において、前年度繰越支払資金を加えた資金収入合計は、3,954,654千円となり、予算より75,234千円上回りました。これは、主として、手数料収入、前受金収入等で見込みを下回りましたが、補助金収入、雑収入等で見込みを上回ったためです。

資金支出は、人件費支出、その他の支出等で見込みを上回りましたが、教育研究経費支出、設備関係支出等で見込みを下回ったため、2,686,134千円となりました。

その結果、翌年度繰越支払資金は1,268,520千円となり、予算より32,152千円増となりました。

## ① 資金収支計算書

資金収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。  
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	996,148,000	998,764,050	△ 2,616,050
手数料収入	19,902,000	18,610,748	1,291,252
寄付金収入	4,844,000	6,591,000	△ 1,747,000
補助金収入	878,226,000	914,182,378	△ 35,956,378
国庫補助金収入	525,088,000	543,926,000	△ 18,838,000
地方公共団体(県)補助金収入	349,764,000	366,582,178	△ 16,818,178
地方公共団体(市)補助金収入	3,374,000	3,374,200	△ 200
学術研究振興資金収入	0	300,000	△ 300,000
資産売却収入	100,000	0	100,000
付随事業-収益事業収入	55,076,000	56,572,000	△ 1,496,000
受取利息・配当金収入	45,453,000	45,299,770	153,230
雑収入	118,408,000	137,855,655	△ 19,447,655
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	359,755,000	346,132,500	13,622,500
その他の収入	1,782,925,834	1,796,947,949	△ 14,022,115
資金収入調整勘定	△ 467,319,000	△ 452,202,800	△ 15,116,200
前年度繰越支払資金	85,901,166	85,901,166	—
資金収入の部 合計	3,879,420,000	3,954,654,416	△ 75,234,416

補助金収入(国庫補助金・県補助金収入)が見込みを上回りました。

長期定期預金からの繰入収入1,300,000,000円及び前期末未収入金収入372,911,619円が主なものです。

科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,768,201,000	1,789,441,821	△ 21,240,821
教育研究経費支出	506,905,000	486,753,599	20,151,401
管理経費支出	204,489,000	191,974,150	12,514,850
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	71,795,000	77,459,193	△ 5,664,193
設備関係支出	61,584,000	40,299,693	21,284,307
資産運用支出	17,571,000	17,571,384	△ 384
その他の支出	190,037,000	210,330,320	△ 20,293,320
予備費	7,900,000	7,900,000	—
資金支出調整勘定	△ 185,430,000	△ 127,696,264	△ 57,733,736
次年度繰越支払資金	1,236,368,000	1,268,520,520	△ 32,152,520
資金支出の部 合計	3,879,420,000	3,954,654,416	△ 75,234,416

## ④ 貸借対照表

貸借対照表について、その主な内容をご報告いたします。  
平成28年3月31日現在

(単位:円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	8,218,923,733	9,802,756,442	△ 1,583,832,709
有形固定資産	7,100,122,219	7,377,285,688	△ 277,163,469
土地	2,763,869,930	2,763,869,930	0
建物	3,339,978,660	3,585,262,813	△ 245,284,153
構築物他	996,273,629	1,028,152,945	△ 31,879,316
特定資産	503,469,290	501,247,906	2,221,384
郡山開成学園創立者関口育英奨学基金引当特定資産	503,469,290	501,247,906	2,221,384
その他の固定資産	615,332,224	1,924,222,848	△ 1,308,890,624
有価証券	600,000,000	600,000,000	0
長期定期預金	0	1,300,000,000	△ 1,300,000,000
ソフトウェア他	15,332,224	24,222,848	△ 8,890,624
流動資産	1,428,845,149	462,721,805	966,123,344
現金預金	1,268,520,520	85,901,166	1,182,619,354
未収入金他	160,324,629	376,820,639	△ 216,496,010
資産の部合計	9,647,768,882	10,265,478,247	△ 617,709,365

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,060,670,626	1,068,808,104	△ 8,137,478
長期未払金	154,796,459	157,317,153	△ 2,520,694
退職給与引当金	905,874,167	911,490,951	△ 5,616,784
流動負債	534,891,769	455,973,492	78,918,277
授業料等前受金	346,132,500	296,693,400	49,439,100
預り金他	188,759,269	159,280,092	29,479,177
負債の部合計	1,595,562,395	1,524,781,596	70,780,799

科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	15,231,798,210	15,337,760,767	△ 105,962,557
第1号基本金	14,985,798,210	15,091,760,767	△ 105,962,557
第4号基本金	246,000,000	246,000,000	0
繰越収支差額	△ 7,179,591,723	△ 6,597,064,116	△ 582,527,607
翌年度繰越収支差額	△ 7,179,591,723	△ 6,597,064,116	△ 582,527,607
純資産の部合計	8,052,206,487	8,740,696,651	△ 688,490,164
負債及び純資産の部合計	9,647,768,882	10,265,478,247	△ 617,709,365
減価償却の累計額	8,071,264,233	7,900,119,492	171,144,741

## ⑤ 財産目録総括表

財産目録について、その主な内容をご報告いたします。  
平成28年3月31日現在

(単位:円)

項目	金額	備考
基本財産	7,114,494,443	
土地	182,438,30㎡	2,763,869,930
建物	50,947.88㎡	3,339,978,660
構築物	289点	90,442,704
教育研究用機器備品	12,162点	402,868,419
管理用機器備品	644点	6,028,817
図書	156,168冊	494,833,687
車両	2台	2
建設仮勘定	2,100,000	0
水道施設利用権	0	減価償却累計額 18,765,590
借地権	980,389	0
電話加入権	2,918,498	0
ソフトウェア	7件	10,473,337
運用財産	2,533,274,439	
現金・預金	1,268,520,520	預入先 東邦銀行他3行
有価証券	600,000,000	外国債券
出資金	460,000	郡山信用金庫他
育英奨学基金引当特定資産	503,469,290	
未収入金	155,509,400	退職金財団交付金他
前払金	144,770	
その他の資産	5,170,459	
資産合計	9,647,768,882	
固定負債	1,060,670,626	
退職給与引当金	905,874,167	退職給与に係る見積債務額
長期未払金	154,796,459	
流動負債	534,891,769	
未払金	83,892,689	
前受金	346,132,500	平成28年度生入学金等
預り金	104,866,580	
負債合計	1,595,562,395	
差引正味財産	8,052,206,487	

## ③ 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。  
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	996,148,000	998,764,050	△ 2,616,050
手数料	19,902,000	18,610,748	1,291,252
寄付金	10,984,000	6,824,000	4,160,000
経常費等補助金	878,226,000	911,445,378	△ 33,219,378
国庫補助金	525,088,000	541,189,000	△ 16,101,000
地方公共団体(県)補助金	349,764,000	366,582,178	△ 16,818,178
地方公共団体(市)補助金	3,374,000	3,374,200	△ 200
学術研究振興資金	0	300,000	△ 300,000
付随事業収入	55,076,000	56,572,000	△ 1,496,000
雑収入	138,002,000	139,932,607	△ 1,930,607
教育活動収入計	2,098,338,000	2,132,148,783	△ 33,810,783
人件費	1,767,113,000	1,785,901,989	△ 18,788,989
教育研究経費	886,310,000	873,999,126	12,310,874
管理経費	207,572,000	195,173,204	12,398,796
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	2,860,995,000	2,855,074,319	5,920,681
教育活動収支差額	△ 762,657,000	△ 722,925,536	△ 39,731,464

科目	予算	決算	差異
受取利息・配当金	45,453,000	45,299,770	153,230
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	45,453,000	45,299,770	153,230
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	45,453,000	45,299,770	153,230
経常収支差額	△ 717,204,000	△ 677,625,766	△ 39,578,234

科目	予算	決算	差異
資産売却差額	100,000	0	100,000
その他の特別収入	0	6,837,577	△ 6,837,577
特別収入計	100,000	6,837,577	△ 6,737,577
資産処分差額	1,000,000	17,701,975	△ 16,701,975
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	1,000,000	17,701,975	△ 16,701,975
特別収支差額	△ 900,000	△ 10,864,398	9,964,398

科目	予算	決算	差異
基本金組入前当年度収支差額	△ 719,104,000	△ 688,490,164	△ 30,613,836
基本金組入額合計	△ 139,519,000	0	△ 139,519,000
当年度収支差額	△ 858,623,000	△ 688,490,164	△ 170,132,836
前年度繰越収支差額	△ 6,597,064,116	△ 6,597,064,116	0
基本金取崩額	0	105,962,557	△ 105,962,557
翌年度繰越収支差額	△ 7,455,687,116	△ 7,179,591,723	△ 276,095,393

科目	予算	決算	差異
事業活動収入計	2,143,891,000	2,184,286,130	△ 40,395,130
事業活動支出計	2,862,995,000	2,872,776,294	△ 9,781,294

除去資産236,768千円の計上により基本金組入れ対象額が取崩し対象額を下回ったためです。

## ② 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書について、その主な内容をご報告いたします。  
平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額
学生生徒等納付金収入	998,764,050
手数料収入	18,610,748
一般寄付金収入	6,591,000
経常費等補助金収入	911,445,378
付随事業収入	56,572,000
雑収入	137,855,655
教育活動資金収入計	2,129,838,831
人件費支出	1,789,441,821
教育研究経費支出	486,753,599
管理経費支出	191,974,150
教育活動資金支出計	2,468,169,570
差引	△ 338,330,739
調整勘定等	155,162,865
教育活動資金収支差額	△ 183,167,874
施設設備補助金収入	2,737,000
施設整備等活動資金収入計	2,737,000
施設関係支出	77,459,193
設備関係支出	40,299,693
施設整備等活動資金支出計	117,758,886
差引	△ 115,021,886
調整勘定等	125,640,113
施設整備等活動資金収支差額	10,618,227
小計(教育活動資金収支差額 + 施設整備等活動資金収支差額)	△ 172,549,647
長期定期預金取崩収入	1,300,000,000
郡山開成学園創立者関口育英奨学基金引当特定資産取崩収入	15,350,000
預り金受取収入	104,866,580
立替金回収収入	3,819,750
小計	1,424,036,330
受取利息・配当金収入	45,299,770
その他の活動資金収入計	1,469,336,100
郡山開成学園創立者関口育英奨学基金引当特定資産繰入支出	17,571,384
預り金支払支出	91,925,256
立替金支払支出	4,670,459
小計	114,167,099
その他の活動資金支出計	114,167,099
差引	1,355,169,001
調整勘定等	0
その他の活動資金収支差額	1,355,169,001
支払資金の増減額(小計 + その他の活動資金収支差額)	1,182,619,354
前年度繰越支払資金	85,901,166
翌年度繰越支払資金	1,268,520,520

## 監査報告書

平成28年5月26日  
学校法人 郡山開成学園  
監事 橋本 忠雄  
監事 遠藤 武士

私たちは、学校法人郡山開成学園の監事として、私立学校法第37条第3項に基づいて同学園の平成27年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)における財産目録及び計算書類(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属明細表)を含め、学校法人の業務並びに財産の状況について監査を行いました。

私たちは監査にあたり、理事会その他重要な会議に出席するほか理事からの業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務に関する決定及び執行は適切であり、財産目録及び計算書類は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示しており、学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実はないことを確認いたしました。以上

### 祝・入学学園創立70周年 第193回芸術鑑賞講座

ベルリン交響楽団演奏会が6月30日、建学記念講堂で開催された。ベルリン交響楽団の来学は一昨年に続き2回目。

イスラエル出身のリオール・シヤンバダール氏の指揮でエルガーの「愛のあいさつ」、シューマンの「ピアノ協奏曲イ短調」。故関口富左名譽学園長が大好きであったドボルザークの「新世界より」など、なじみのある3曲を優雅に、そして華麗に奏でた。ドイツの名門オーケストラの情熱的



学生・生徒を魅了したベルリン交響楽団

な演奏に会場は静まりかえり、生徒、学生、教職員は感動の時を味わった。

### うねめ祭り踊り流しコンクール 2年連続準大賞

商都郡山市の夏の祭典「第52回山うねめ祭り」のメイン行事「うねめ踊り流しコンクール」が8月5日、6日に郡山駅前大通りで行われ、本学



445人が参加した郡山開成学園

園が2年連続準大賞に選ばれた。コンクールには郡山女子大学/短期大学部/附属高校から教職員445人が参加し、華麗な踊りを披露。観客から大きな声援が送られた。

また、個人の部でも佐藤明梨(短・食2)さんと吉田真里菜(大・食2)さんが選ばれた。

### ミス采女に増子さん

「第52代ミスうねめ(郡山)」に短大・音楽科(2年)の増子千晶さんが選ばれ、「うねめ祭りの顔」としてまつりを盛り上げた。まつりの後はミス郡山として、姉妹都市奈良采女祭り観光使節団や郡山市のPR活動などで活躍した。

### わくわく子ども大学 in郡山女子短大

8月7日にわくわく子ども大学in郡山女子短大が本学で開催されました。このイベントは地域貢献と郡山女子短大のPRを目的に行われ、県内の小学生約150名とその保護者が参加しました。当日は、11の体験ブースに分かれて、子どもたちと一緒に楽しく活動しました。また、今回のイベントには県内の21社の企業より協賛をいただき、参加者にお菓子、飲料水、文房具などのたくさんのお土産がプレゼントされました。中でも、「JA福島さくら」より、地元で収穫された野菜等が参加者全員に手渡され保護者の皆様にも喜んでいただくことができました。また、柏屋のイメージキャラクターの「うすかわくん」や郡山市の「がくと

くん」もイベントに参加し、子ども達に大人気でした。わくわく子ども大学は、短大の各学科の実行委員の先生方を中心に5月より準備を進めてきました。初めての試みでしたが、6つの学科の力を結集して開催することができました。また、当日は約100人の学生にボランティアとして参加していただきました。最後に、協賛していただいた企業の皆様、イベントの開催にご協力いただいた先生方及びボランティアの皆さん、皆様に心より感謝申し上げます。



小学生、保護者の皆さんと楽しく活動

### 研修旅行を終えて 大学家政学部食物栄養学科2年 石井 千遥

私たちは8月30日から6泊6日で行った。実施された、「ハワイ・グロバル育成研修」に参加しました。最初の4泊はマウイ島でのホームステイでした。研修前は現地の人と交流ができるという楽しみの反面、言葉の壁に不安を抱えていました。しかし実際に行動してみると皆さん快く受け入れて下さり、シヨッピングやビーチ、パーティーなど毎日盛りだくさんの内容で、私達を歓迎してくださいました。ホテルではバルハーバーに行き過去に起こったことについて学び「ハワイはただ楽しいところではない」と、認識を改めることができました。今回の研修では日本とは異なった景色、食習慣、生活様式などに直に触れて驚くと同時に学ぶことも多くあり、とても充実した時間を過ごすことができました。

## BOOK 郡山女子大学 大学図書館

### 新しい本が届きました… 第2回

残暑厳しい折ですが、青葉繁れる木陰で読書はいかがでしょう？



### 『植物はなぜ動かないのか』

ちくまプリマー新書：252  
稲垣栄洋著  
筑摩書房 刊  
請求記号 081|TiP||252



### 『キャリア教育論』

荒木淳子 他 著  
慶応大学出版会 刊  
請求記号 377.9|IA

### 『干物の機能と科学』 (食物と健康の科学シリーズ)



滝口明秀、川崎賢一 著  
朝倉書店 刊  
請求記号 498.51|IA

### 『Life & Architecture: 暮らしの空間デザイン手帖』 (エクスナレッジムック)

森清敏、川村奈津子 著、  
エクスナレッジ 刊  
請求記号 527|Mo



## 短期大学部 生活芸術科

郡山女子大学短期大学部生活芸術科1年生と2年生の油彩画作品です。今年6月に開催された「第70回記念・福島県総合美術展」に出品された作品で、準備期間は2か月ほどと短かったのですが若い力で乗り切りました。方向性は違うものの両作品共に独自の世界観があり、鑑賞者を魅了します。

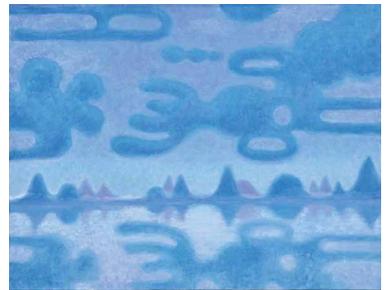


たかほし 高橋 すずね

### 「Overlap」

油彩画F50号  
(生芸1年生)

何か障害にぶつかった時、全てを受け入れてしまえば楽になるような気がしますが加減を知らない彼は時々自らを傷つけてしまうのです。



さいとう 齋藤 あかり

### 「湖の幻影」

油彩画F50号  
(生芸2年生)

湖の風景を描いた作品です。ほんやり浮かぶ雲や湖面に映る景色など、幻を見ているような幻想的な世界をイメージして描きました。

## 紙上美術展 80

## 木もれ陽

厳しい暑さに秋の訪れが待ち遠しく思えた今夏、地球の反対側では、オリンピック・パラリンピックが開催された。連日熱戦が繰り広げられ、日本中・世界中から熱い声援が送られた。4年に一度の祭典に焦点を合わせ、各国の代表として競技に向かう選手の姿勢とその活躍に感動を覚えた。特に陸上400mリレーのバトンパスは圧巻で目を見張った。

学園は創立70周年という大きな節目の年を迎えた。建学の精神「尊敬」「責任」「自由」のもと、女性の高等教育の普及と向上を目指し建学された本学は、伝統を継承しつつ、日々新たな視野で更なる飛躍、発展・充実へと力強く前進している。また、学園の歩みを記す本誌「開成の杜」は昭和53年に創刊され、以来34年の時を経て、第100号の発行を迎える記念の年となる。故名譽学園長関口富左先生が執筆される巻頭言には、何時も慈愛に満ちた眼差しで、四季折々の思いが綴られ、私達に在り方を示し下さる。今、学園の歴史に学園創立70周年が刻まれ、新たな1ページとして連綿と受け継がれていくことは大いなる喜びである。オリンピック・パラリンピック旗というバトンがブラジル・リオから東京に引き継がれた。日本での開催に期待が高まる。4年後はもっと暑い夏になるだろう。(孝)